

週末は久しぶりの雨となり、急に気温が上がりました。大雪が降り続いた地方では雪崩が心配されていますが、大丈夫でしょうか。博物館は、このところ来館者が1000人を超える日もあり大盛況(先週の成人式の日には来館者数1516人)。昨日の片岡鶴太郎氏の講演会とサイン会も大好評でした。

### 1. 片岡鶴太郎氏 来館 ドキュメント サイン会整理券を求めて

1月14日(土)7:50 サイン会整理券を求める男性1人が博物館玄関に。お話を聞くと、「妻が鶴太郎さんの大ファンで、今日は三木市からやってきました。」とのこと。「一番乗りだったよ」と携帯で家の奥様に報告。その後、9:30までにおよそ40人の方が列をつくれ、開館後は、特設の画集販売コーナーでお気に入りの画集を選び、整理券を手にして展示会場へ向かわれました。200枚用意した整理券もお昼過ぎにはなくなりました。



朝の行列



特設の画集販売コーナー

### 2. 片岡鶴太郎氏 来館 ドキュメント 講演会

12:45 片岡鶴太郎氏到着。すぐに展示会場をぐるっと観覧されました。そのころ2階の講演会会場前にはすでに長い行列が。年末締め切りの講演会への申し込みは1200通を超え、当初の100名から人数を増やし、161名の方を当選として入場していただきました。



いよいよ入場



公演中の鶴太郎氏



会場内は笑顔と笑いつつまれていました

14:00 鶴太郎氏が登場すると大きな拍手。「展覧会に行くときは、これが欲しいという作品をひとつだけ見つけるようにしています。みなさんは私の作品でどれが欲しいですか？」という質問から講演会が始まりました。「西瓜と精霊飛蝗」「ガラスのピンクの器」「椿」など、参加者からの声に対して、その作品にまつわるエピソードを紹介し、丁寧に答えていただきました。「たくさん作品がありますが、自分でこれはという1点を見つけてほしいですね。」と鶴太郎氏。

「40歳の頃、突然何か描こうと思い始め、近くの文房具屋で墨と硯と筆を買いました。」「描いてみると何だかおもしろかったんですよ。絵と書を同時に始めました。」その後、タモリ氏の紹介で墨絵の先生を紹介され、コースターに似顔絵をみんなで描いたエピソードを話されました。



その時の先生から「上手く描かないで下さい。役者もその人物になりきればいい。俺はうまいだろというのは鼻につくでしょ。下手でもモチーフに“思い”が入っていればいいんですよ。」と言葉をいただき、肩の力が抜けて、楽に描けるようになったということです。

「魚であれば、その魚の特徴を描いています。余白や余裕が画面にあるほうがいいんです。演技も同じで、あまりに一生懸命は苦しいものです。」と鶴太郎氏。



鯖



鱈

大好きなモチーフは「鯉」。鯉は長寿で、100年生きるとか、257歳まで生きたという鯉の生命力に惹かれるそうです。昨年は京都の善峯寺（よしみねでら）で100畳の座敷に襖25面、長さにして26メートルにも及ぶ大作、襖絵「游鯉龍門圖（ゆうりりゅうもんず）」を制作され、250匹の鯉を描かれました。

「来週月曜日からテレビで“八丁堀の七人”が始まります。観て下さいね。」とメッセージを残し、1時間に及ぶ講演会の幕が下りました。人をひきつける巧みな話術とユーモア、参加された方々から大きな拍手が続きました。

### 3. 片岡鶴太郎氏 来館 ドキュメント サイン会

16:00、いよいよサイン会です。会議室で200名の方が待つ中、鶴太郎氏が再登場。「“鶴”の一文字に心をこめて書かさせていただきます。」とあいさつされ、サイン会が始まりました。筆を持つ左手で“鶴”の文字、右手で握手。一人一人に声をかけていただきました。



会場は超満員



左手で



右手で握手

### 4. 片岡鶴太郎氏 来館 ドキュメント 無事終了!

博物館にとっては、かつてないほどの大きなイベントでした。久しぶりの雨で心配しましたが、大きな混乱もなく、無事終了。鶴太郎氏は「とってもいい会場です。来年もお願いしたいですね。」と言葉を残して、明石を後にされました。

「片岡鶴太郎展 夜桜」 1月29日(日)まで開催中。

[土・日はたいへん混雑しております。できるだけ公共交通機関をご利用下さい。](#)

詳しくは下記をご覧ください。

<http://www.edi.akashi.hyogo.jp/bunpaku/>

明石市立文化博物館 編集：永田浩史